令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　⑩障がいのある子どもの育成支援

◆　ユニバーサルデザインの視点に立った子どもたちへの具体的な支援について理解できた。また、子どもたちを支援するうえで、ついつい激しい口調になりがちだが、子どもの気持ちを理解し、うまくできた時は大いにほめることの大切さを学んだ。また、保護者との連携について、保護者の揺れ動く思いに寄り添いながら、傾聴、共感する姿勢で臨みたい。さらに、専門医療機関を受診した情報等、秘密を厳守しながら学校等と共有して支援していきたい。

◆　障害のある子どもの育成支援についての研修の中で、相手を好きになるコツとして、その子を決めつけずポジティブに見ることや「困った子は、困っている子」であることを再確認した。これは大人との対人関係にも言えることだと思うので、自分自身の器を大きくして人に接していきたいと思った。また、子どもたちの支援の仕方として、気持ちを静める方法（深呼吸する、５秒ルール、楽しいことを考える）を教えることを学び、早速学童保育の中で活かしていきたいと思う。

◆　障がいのある子どもの育成支援の科目を受け、取り組みやすい支援をする、環境を整える、できたらほめるなど、障がいのある子にだけでなく、どの子にも共通して関わる支援ではないかと感じた。保護者に対する支援や連携は難しいこともあるが、やはり一番大切なことは信頼関係であることも改めて確認することができた。つい支援が必要な子へ目がいってしまうが、周りの子どもにも配慮を忘れず、一緒に支援できる環境をつくっていきたい。

◆　障害のある子どもと接する際、気が散りやすい子は色々なことに関心がある子、協調性がない子は自分の考えをしっかり持っている子、～しかできない子は～ができる子など、ポジティブに考えてあげることによって、その子の見方が変わり、良い支援（リフレーミング）につながることを学びました。すぐその場でほめる 60 秒ルール、課題が 25%できたところでほめる 25%ルールを心掛け、子どもたちをほめてあげて自信につなげたいと思いました。

◆　障害のある子どもたちを支援するうえで、見えない部分の不安を少しでも知ろうとする気持ちが必要なのではないかと思いました。分かりやすく、ゆっくり、穏やかに、できたらほめる。当たり前のことのようですが、いざとなると難しいなと思います。低学年の子どもたちにも同じような対応が必要だと思います。できなかったことができるようになることが成長、それは個々に違うことを忘れずに支援していきたいと思います。